

青森県立弘前高等学校の現状と課題

平成26年8月1日（金）13:00 於アラスカ会館
青森県立弘前高等学校 校長 瀧本 壽史

1 目指す人間像

「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」 c.f. 「一隅を照らす人」

2 教育目標

(1) 規律ある自由<徳> (2) 自学自習<智> (3) 体力の増進<体>

3 一般的な学校観・評価

創立130年を迎えた歴史と伝統を誇る県下屈指の進学校であり、諸分野に多くの人材を県内外に輩出している本県を代表する高等学校（青森高校、八戸高校とともに）

4 現状と取組

(1) 文武両道 部活動加入率96% H26 県高総体団体3位が6団体 インターハイにも個人で出場 文化部も全国総文に3部出場等

(2) 進路志望（1年281人） 東北大89人 弘前大81人 北大21人 東大14人
医・歯・薬107人 理工学59人 人文科学31人

(3) 進学率：80%前後 合格率：45%台 国公立合格150人前後

(4) 主要大学 H26 東大1 京大1 東北大26 北大3 弘大73（内医9）
慶応3 中央5 法政2 明治4 立教3 早稲田7 立命館2

(5) 進路関係取組 ①進路年間行事予定 ②各学年進路年間計画 ③平常講習

(6) 教育課程の検討 ①7時間授業（週4日）の実施 ②土・日の活用

(7) 教員研修の推進 校内研修、予備校教科研修等

(8) キャリア教育の推進 総合的な学習の時間と特別活動の活用 「市民性の育成」
総学：①進路探求 ②ねふた探求 ③課題探求

特活：①部活動の充実

②自治会活動の充実 「生徒自治会」『自治会誌』

自治会会則前文 昭和25年5月30日施行（以来変更なし）

「我等は、学問の自由と学園の自治を根本とする民主主義思想を理解し、真理に対する絶えざる憧憬と人間性の自覚により、学園のあらゆる環境を改善し、もって勉学上最大の成果をあげんことを期して、この自治会を設立する。我等は自治会の活動と発展のため自治協同の精神を発揚し、学生としての本分を誠実に履行する義務があると信ずる。我等は個人の知性陶冶と道徳的完成を理想とし、ひいては社会構成の一員としてよりよき思惟と実践とに協力を惜しまぬものである。我等は我等の理性と名誉にかけて、この崇高な理想を堅実に貫徹することを誓う。」

5 生きる力育成への取組 [共通性]

- (1) 確かな学力 ・ビブリオバトルの導入 ・生徒自治会主導の諸行事の実施
- (2) 豊かな心 ・ねぶた制作と運行 (→郷土愛と地域文化の継承)
- (3) 健やかな体 ・部活動の推進 ・基礎体力増進を基本とした体育の授業

6 エリート人材育成の取組 [多様性：本校の特色]

上記4 (1)～(8)

→高い進路志望達成と大学入学後・卒業後に向けた「市民性」の育成

※特色と言えるのだろうか？ ※青高・八高とほとんど違いなし、3校の特色？

7 本校の現状を維持するための課題 (条件)

- (1) 高い学力を有した生徒の確保
- (2) 一定規模の生徒数 (小規模校でないこと)
- (3) 進路達成に向けた授業・講習等の実施
- (4) 教職員数の確保
- (5) 弘前市に所在すること、等

8 本校のより一層の飛躍を目指すための方向性 →県立高校将来構想に向けて

- (1) 本校単独では限界 (生徒も先生もやれるだけやっている)
- (2) 普通科・学年制の枠組みの中では限界 (例年の繰り返し)
- (3) いわゆる現状の3校のあり方では限界 (切磋琢磨の限界、秋高1校以下)
- (4) 青森県の中の3市のあり方と3校のあり方は共通でいいのか

→①3校は現状維持した方がいいのかを3市との関わりの中で確認すべきか

②3校が協力し、また役割分担をしながら共に今以上のエリート人材を育成していく方策はないのか

③3校のありようを方向付けることによって次の一手が打てるのではないのか

④4次計画はハード面よりソフト面か

青高・八高・弘高の3校あり方はこのままでいいのか。青森県の3市のありよう、地域性と共に考慮しながら、一定程度の方向性を出す必要があるのではないのか。

3校がともに、今以上に世界に通用し、今以上に数多くの人材を育成するために3校にどのようなメスを入れられるかが今後の大きな課題ではないのか。

切磋琢磨をしながらも、繋がる部分を、共有する部分を持ちながら、3校が一緒になって、より質が高く、より多様で、より多数の青森県の人材を育成できないか。あるいは3校の上に、3校を凌ぐ1校を作った方がいいのか。3校を一つにまとめた方がいいのか、・・・等等。